

語法研究：三題

文学研究科英文学専攻博士後期課程満期退学

木内 修

0. はじめに

本稿は語法研究を3つの角度から接近し、それぞれの現象を英語学習者にとって、より一層納得がいき、丸暗記に頼ることがなく、自然に使いこなせるように導くことが主たる目的である。仮定の読者は、高校卒業程度の英語力（英検2級）から大学でさらに2年間真剣に学び続けた英語学習者（英検準1級）の理解力を有する人を対象としている。よって教育的配慮から文体も、ですます調で読みやすさを重視している。

英語の慣用表現の謎解き、基本単語の語源からアプローチ、そしてこれまた基本単語であるが、英語辞典（*The Pocket Oxford Dictionary*: POD）の定義をただ見るのではなく、読み込む重要性を披露することになる。

1. 納得英文法：to one's feet の理解へ

よく見聞きする表現で知っていると思っていっても、あらためて分析的に考えると、その説明に窮することがよくあります。ここでは、児童文学でもよく目にする（1）の on one's feet や（2）の to one's feet について考えていきます。学習用英和辞典を紐解けば、foot の成句表現に、on one's feetは「立っている状態で；立ち上がって」、to one's feet は「立っている状態に」とあります。すると（1）と（2）のような試訳ができあがります。

(1) With Cantu in my arms, I made a leap from the wharf to the moving barge, with good fortune landing on my feet. (Scott O'Dell, *The Seven Serpents Trilogy*)

(カンツを両腕に抱いて、岸壁から走っている屋形船に跳び移り、運よく両足で立った)

(2) I staggered to my feet, crippled by the pain of my wound.

(K. A. Applegate, *Animorphs - 30 - The Reunion*)

(よろめきながら立ち上がった。傷の痛みで思うように歩けなかった)

(1) の on one's feet は「接触のon」から「基盤の on」の意味が発展し「自分の両足を基盤にして」つまりは「両足で立つ」と容易に納得がいくところです。しかしながら、(2) の to one's feet になるとほとんどの英語学習者には意味の発生の仕掛けはブラックボックスの中に封印され、辞書や文法書を見ても、ただ言語事実を記述しているだけで、なぜそのような意味になるかの「説明」がありません。

さて、to one's feet のどこに問題があるのでしょうか。ずばり、前置詞 to の理解に思考停止となる原因が潜んでいます。事態を単純化して (3) と (4) を理解のための補助線として利用し問題解決に向かいましょう。

(3) Taro walked to the park. (タロウは公園に歩いて行った)

(4) The farm went to pieces. (その農場はめちゃくちゃになった)

前置詞 to のイメージは到着を含意する矢印をイメージする方向性【⇒ (方向)】です。(3) の場合は物理的な空間での方向で「位置変化 (change of position)」を意味しています。彼自身が公園へ移動している。それに対して (4) は、位置変化ではなく (3) の用法に比べると抽象度の上がった「状態変化 (change of state)」です。つまり (3) と (4) の to の意味の共通項は「変化」であり、「位置」なのか「状態」なのかの部分を変数となっているのです。

そこで (5) の例文を追加して説明を続けます。

(5) I got to my feet, dazed. (K. A. Applegate, *Animorphs* - 30 - *The Reunion*)

(立ち上がると眩暈がした)

そもそも get の意味は数学での素数のようなもので、より基礎的な意味構造の動詞です。I got to my feet を [I got] と [to] と [my feet] に分析し、前置詞 to のイメージを図式化すれば ⇒ であるので [私は変化した] ⇒ [自分の両足の状態に] となります。

$$\left(\begin{array}{cc} \text{I} & \text{got} \\ \text{私は変化した} & \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \text{to} \\ \Rightarrow \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \text{my feet} \\ \text{自分の両足の状態へ} \end{array} \right)$$

この get は意味的に get X という形態のとき、他動詞の get ならば「目的語 X を持っていない状態から持っている状態に変化する」であるし、自動詞ならば「主語の状態が X にな

る」ということになります。つまり、to one's feet と表現されているということは、動詞の意味が具現化される以前は、「両足」で何かをしている状態ではなく、椅子に座っていると、床かどこかに寝転んでいる状態であることが分かります。そして述語動詞の意味によって変化が生じ、その流れを頭の中のスクリーンに我々は映し出せばいいことになります。

よって、辞書の成句の所に記載されているように動詞と切り離して to one's feet と理解するのではなく、[V + to one's feet] という動詞句の形態で、「Vして（結果として）立った」と考えるのが、より良い理解につながるのではないのでしょうか。

辞書は英英辞典でも英和辞典でも、結果としての意味を示すことがその仕事の限界なのです。私たちが、英文に接した時の英語母語話者の思考過程までを理解するためには、英語の単語や文法のひとつひとつに対する考え方の筋トレが必要となります。

最後に、他の動詞と一緒に使用された例を挙げておきます。

(6) I scrambled to my feet. (K. A. Applegate, *Animorphs -52 - The Sacrifice*)
(急に立ちあがった)

(7) I jumped to my feet. (K. A. Applegate, *Animorphs -48 - The Return*)
(ぱっと立ちあがった)

(8) She helped him to his feet.
(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 21 Civil War on Sunday*)
(立ち上がるのを手助けした)

(9) Another soldier lifted the drummer boy to his feet.
(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 21 Civil War on Sunday*)
(持ち上げて立たせた)

(10) He hooted and leaped to his feet.
(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 26 Good Morning, Gorillas*)
(跳ねるようにして立った)

2. Simplyを一言でいうと

Simply は simple の副詞形です。simpleを語源で説明すると sim が one を意味し single と同じ語根です。そして ple は「折る」とか「重ねる」という意味でdouble とか multiple という語の中にも使われているものです。つまりsimple は折られたり重ねられたりしてい

ない一枚の状態、構造的に単純であることを意味しています。

一文ずつ確認していきましょう。(1) は述語動詞の said がポイントで発話内容に焦点が当たっているので、発話内容が単純な構造を取っていることになります¹。よって「・・・とだけ言った」という解釈になります。(2) は一見、(1) と似ているように思われるかもしれませんが、speak は発話内容には関心がなく、音声を発するという動作に着目している動詞です。するとそこに修飾する副詞は様態副詞が期待されることになるので、話しぶりが複雑ではなく単純であることになります。(2) の simply と等位接続詞で結ばれた副詞もすべて様態副詞つまりやり方を表現する副詞として働いていることから傍証されます。

(1) In the hallway, Annie turned to Jack. “Merry Christmas,” she said simply.

(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 29 Christmas in Camelot*)

(廊下で、アニーはジャックの方を向き、「メリークリスマス」とだけ言った)

(2) She spoke, as indeed she has always spoken, simply, clearly, and vividly.

(H. G. Wells, *The New Machiavelli*)

(彼女は話したが、本当にいつも通りで、あっさり、はっきり、生き生きとした言い方だった)

つぎの (3) と (4) は強意用法と呼ばれているものです。(3) は brilliant という概念に他のものが混じっておらず、そのものずばりであるため、「とても」すばらしいという意味が生じます。(4) は否定の語の前に生起して、その否定されている事態をひとまとまりで捉えていて、決して例外的な部分を有するような複雑な構造ではないのです。Xが100%ということは、何らかの単一の構造をしているということです。つまり、純粹に100%否定することになるので、「絶対に・・・ない」という強い否定となるのです。

(3) “No, you are simply brilliant!” the man said.

(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 25 Stage Fright On A Summer Night*)

(「いや、君は全くもってすばらしいよ」とその男は言った)

(4) “I simply don't believe you,” he said coldly.

(D. H. Lawrence, *Collected Short Stories*)

(「君の言っていることは、どうしても信じられない」と彼は冷たく言った)

どのような側面が単純であるかを確認することが simply の表わす意味を的確にとらえる

要となります。辞書の語義が複数あっても意味は単純で1つだけなのです。

最後に simply が出現する環境をちょっと見てみましょう。手元の小型のコーパスでは、simply は2371回出現し、その simply の直後に20回以上生起するものは次の単語です。

124 : a 24 : an 86 : and 52 : as 81 : because 24 : by
 31 : can't 24 : could 31 : couldn't 27 : have 31 : I 26 : impossible
 33 : in 21 : not 21 : said 40 : that 58 : the 87 : to

to は不定詞の to で、in は simply in order that だとか simply in order to が多数をしめています。つまり目的が複数ではなく、絞り込まれた目的です。また、(5) のようにある事態が起きている理由が、ひとつであることを示したり、(6) のように手段が複数存在するのではなく、たった一つの手段によって何かをしたりすることを強調するために simply が使われていることが、見て取ることができます。何かが単純化の方向に進み、絞り込まれると、それが強意の意味に変化するカラクリも一目で理解されたのではないのでしょうか。

(5) Most hotels don't have a thirteenth floor simply because people are superstitious about it.
 (Obert Skye, *Leven Thumps and the Wrath of Ezra*)

(大半のホテルには、13階がありません。理由は簡単で人々が13についての迷信を信じているからです)

(6) They allow instant access to information simply by turning pieces of paper.
 (K. A. Applegate, *Animorphs 08 - The Alien*)

(紙をめくるだけで簡単に情報を得られるのです)

3. Awayの意味の諸相

日本では児童文学作家として有名なDahlの *Charlie and the Chocolate Factory* の中で、小人たちが歌うシーンに次のようなものがあります。

(1) And cannibals crouching round the pot,

Stirring **away** at something hot.

(人食い人種たちが鍋の周りでしゃがんで/ 熱いものを何かかきまぜ続けている)

ここで問題になるのが、基本語彙のawayの意味です。POD (*The Pocket Oxford Dictionary*) 5版の定義を参考に考えていきましょう²。

POD 5版の定義

- (a) to or at a distance from place, person, &c., in question
- (b) into non-existence
- (c) constantly, persistently; without delay

まず、(a) の定義文で重要なのは、to or at a distance のto の部分です。at a distance の部分だけだと、接触の on の反対語である off と差別化が出来ません。まず、「分離」の意味で一般に捉えられている off と away の違いは off は 単なる位置関係としての「状態」としての意味に力点が置かれているのに対して、away はその意味に加えて、離れる動的な意味を文脈から得ることが出来ます。また、「分離」という意味はあるところからの「分離」であり、PODの定義では from 以下で明示されています。(2) の例文が動きのない単なる位置関係の away の事例であり、(3) の例文が移動を意味する away の事例となります。ただし、away それ自体が動きを意味するのではなく、それと共に起る述語動詞の意味によって、動作的に解釈が可能となるのです。

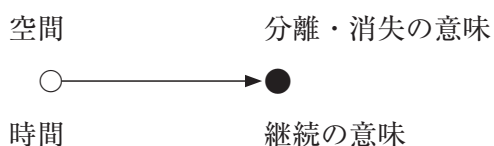
(2) The lucky person was a small girl called Veruca Salt who lived with her rich parents in a great city far **away**. (運の良かった人はベルーカと呼ばれている小さな女の子で、裕福な両親と一緒に遠く離れた大都市に住んでいました)

(3) ...they were sucking up the brownish muddy water from the river and carrying it **away** to goodness knows where.
(彼らは茶色いどろどろした水をその川から吸い上げて、そしてどこかわからないところへそれを運んでいました)

POD の2つめの定義文は「消失」の語義を示しています。人間は自分から離れていくものは、時間がたつと目に見えなくなると経験上知っているものです。つまり「消失」の語義は中心的な意味である「分離」の意味の延長線上にあると言えます。(4) に示した例文がそれに該当します。

(4) Mr Willy Wonka can make (...) little feathery sweets that melt **away** deliciously the moment you put them between your lips. (ウィーリー・ワンカは口に入れた瞬間美味しくとろける小さな羽毛のようなお菓子も作れるのです)

さて、問題は3つ目の語義である「継続」に相当する意味です。最初の2つの意味は away が空間における記述の対象でしたが、この継続とは基準時間から離れた時間でも述語動詞の動作が有効であることです。空間の意味を時間の世界に写像した比喻表現と言えるのです。ある行為をして時間が経過するためには、その行為は継続したり反復したりする必要があります。ちなみに away はもともと古英語の onweg で、語源的に分析すると on + weg であり、現代英語では on + way となります³。すると「途上」から、その道を突き進むことから「離れて」の意味が生じます。



(5) “What do you mean?” said Violet, still chewing **away**.

(「どういう意味」とヴァイオレットは相変わらずガムをかみ続けて言った)

いくつかの児童文学から示唆的な例文を検討してみることになります。awayの「分離」の意味に一見類似した off の「分離」と比較しながら、away の本質に切り込んで行きます。

(6) においてきびすを返すという方向転換の瞬間、「移動」の行為は止まり、そこから逆方向に動きだすことになります。つまり再出発です。(7) では頭を下げた相手から離れていく場面です。この off は on という「接触」の反対概念で「分離」の瞬間に焦点があたっているのです。

(6) Jimmy turned and walked off, shoulders squared.

(ジミーはきびすを返して、胸を張って歩いて去った)

(Christopher Golden, *King Kong*)

(7) Dipping his head, he walked off to meet the leader of the group.

(彼は頭をちょっと下げ、グループのリーダーに会いに行くために歩いて立ち去りました)

(Erin Hunter, *Moonrise*)

一方、away の方は、まず (8) では PODの重要な定義項でもあった起点を意味する from が away の a つまり継続の on の意味によりあるところは離れて、距離もしくは時間がたつために、分離するその一瞬ではなく、その後の過程や結果の意味が生じてきます。まさに (9) は、分離した後、どの方向に進んでいくのかということに焦点が当たっている。そして

(10) になると距離感が最大値となり視界から消えるという意味まで生じてくるのです。

(8) Jack and Annie walked away from the table.

(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 41 Moonlight on the Magic Flute*)

(ジャックとアニーはテーブルから歩み去った)

(9) With a wave to the others, Kingsley walked away into the darkness toward the gate.

(J. K. Rowling, *Harry Potter and the Deathly Hallows*)

(他の人たちに手を振って、キングスリーは暗がりの門の方へと歩み去った)

(10) Then she walked away, out of sight.

(Mary Pope Osborne, *Magic Tree House 26 Good Morning, Gorillas*)

(それから彼女は歩いて行き、見えなくなった)

ここまでをまとめると、away の基本義は「分離」で、状態動詞と共起すると基準となる場所から離れているといった位置を表わし、動作動詞と共起すると基準となる場所からの分離する過程を意味するか、未完了を意味する進行相とともに生起すると継続・反復を意味することになります。

この *Charlie and the Chocolate Factory* はおよそ 32000words で構成されています。そして、away が使用されているのが 39回で作品全体の中で143番目に多く使用されている単語になります。142番目に多く使用されているのが、oh で40回です。got と must と what は away と同率で 39回使用されています。

英単語の away を語るのに、*Charlie and the Chocolate Factory* だけを使って説明しました。中学校と高等学校で検定教科書だけを使って勉強すると 6年間に読み込む英単語の延べ数でおよそ 25000単語に触れている訳ですが、この *Charlie and the Chocolate Factory* は 30000単語を越えます。しかし、200頁弱のペーパーバックですので、ゆっくり読んでもひと月かかりません。多読の第一歩としてお勧めする児童文学でもあります。英語に自信がない方は映画にもなっていますので、そちらから入ってもいいでしょう。

5. おわりに

慣用表現と一般に扱われている語句もその表現形式が定着する前は、その構成要素である1語1語の単語の意味がより明確にあったはずです。ここでは、to one's feet の意味の仕組みを明示しました。つぎの simply という副詞の英語辞典における語義の数は5つや6つに分か

れているのが普通ですが、その背景、つまりすべての意味の底流にある中核的なイメージを明確にしていきました。最後に POD の定義を読み込む有効性について away の語義を手掛かりにして明らかにしました。

参考文献：

木内修 2015 「基本発話動詞の覚書」『東洋大学大学院紀要第52集』 269-283.

木内修 2016 「actually を考える」『東洋大学大学院紀要第53集』 191-205.

辞書：

Pocket Oxford Dictionary 1969⁵ Oxford: Oxford University Press

Pocket Oxford Dictionary 1978⁶ Oxford: Oxford University Press

Pocket Oxford English Dictionary 2013¹¹ Oxford: Oxford University Press

¹ 基本的な発話動詞に関する考察は、木内（2015：269-83）を参照のこと。

² PODの定義を活用して語の本質を明らかにする論考に、木内（2016：191-205）がある。

³ POD5版の語源欄では [ON, WAY] とシンプルな記述となっている。6版では [A³, WAY] という表記であり、A³とは前置詞としての on, to, in の意味でその語源欄は [ON] となっている。最新版の11版ではaway に関して語源の記述はない。

Studies in English Usage

KIUCHI, Osamu

This squib consists of five sections including introduction and concluding remarks in the following manner. We first demonstrate how to learn the idiomatic expression of “to one’s feet” by grasping the fundamental meaning of the preposition “to”. Next, we take up a subject of a basic word “simply” and sort the problem out with etymological significance of the word. Finally, we investigate the deeper meaning of “away” from definitions in Pocket Oxford Dictionary. It is hoped that this study will contribute toward an increased awareness of the method to master English.